

# 平成 26 年度（2014 年度）事業計画書

## （はじめに）

2014 年度の公益財団法人鼓童文化財団は、公益活動の更なる充実を図るために組織改革を行い、新たな部門体制での運営を進める。具体的には佐渡振興部と事業開発・推進部を統合し「事業企画推進部」とし、鼓童村近くの旧深浦小学校を改修し新たに開設する「深浦学舎（仮称）」を活用した研修プログラムの開発を進める。また、顧客サービス部を「ファンドレイジング部」に改組し寄付金集めの体制強化を行うほか、新たな取り組みとなる「地域づくり」コースの試行に伴い、研修所運営部を「人材育成部」として充実を図る。

## （重点分野）

- 深浦学舎（仮称）の開設による、鼓童創設の原点である「日本海大学」の現代的再創造
- ファンドレイジング部の創設による、公益事業の推進に向けた資金調達力の強化
- 鼓童と地域の未来を担う人材の育成

## （実施事業）

- ア. 人づくり
- イ. 地域おこし
- ウ. 芸術文化の振興
- エ. 国際交流
- オ. ファンドレイジング

### ア. 人づくり

（研修および体験学習を通じた担い手の育成）

#### （1）「太鼓芸能集団 鼓童メンバー養成」コース

旧岩首中学校を拠点に、舞台メンバーを養成する研修プログラムの更なる充実をはかるため、太鼓芸能集団 鼓童、株式会社北前船と共にカリキュラムの再構築を行う。

- 総合課程 4月～1月 約12名
- 専門課程 2月～1月 約8名

#### （2）「地域づくり」コース

旧深浦小学校を拠点に、地域づくりコースの試行による実習生の受け入れを行い、2015 年度からの本格導入を進める。

- 試行第1期実習生の受入

## イ. 地域おこし

### (地域資源を利用した地域活性化)

#### (1) 佐渡太鼓体験交流館の運営

県内修学旅行生を対象とした太鼓体験は、好評をいただき定着しているが、時期が限定されている事と少子化の影響で今後参加人数の減少が予測されることから、新たなプログラムの開発に取り組む。具体的には、小木半島巡回バスの開設に合わせた個人体験の充実と、旧深浦小学校の宿泊施設を活かした合宿プログラム等を企画する。

また、本施設が建設された目的でもある、地域に点在する体験施設や体験活動の結节点（ハブ）としての機能を充実させる。そして、旅行業登録を機に開拓してきた旅行会社との関係を生かし、2015年の北陸新幹線開業、小木直江津航路の高速カーフェリー就航を見据えた、旅行企画の造成を図る。同時に運営スタッフの育成を、佐渡市の地域人材育成施策とも連動させながら進める。

- ・ 太鼓体験、刺し子教室、伝統料理教室、ミニコンサート、講演ほか

#### (2) 鼓童 佐渡特別公演

2013年に春、夏と行い好評をいただいた公演を、2014年は春と秋に宿根木公会堂を会場に開催する。同時に、宿根木を基点にした着地型ツアープランを造成すると共に、伝統食の提供、地元の特産品の開発に取り組む。

この公演が佐渡市による街並み景観整備地区事業立ち上げのきっかけとなった。2014年度には公会堂改修計画と基本設計を行い、2016年度の竣工を目指している。

#### (3) 観光振興

- ・ 佐渡市「着地型観光モデル推進事業」

佐渡の着地型観光のモデル地区として「宿根木地区」の受入体制を整備し、今後島内各地に着地型観光の拠点地区を普及させる。

- ・ 新潟県「小木直江津航路利用促進業務」

小木・直江津地区の住民の交流を促進し、両岸市民の主体的・持続的な取組による小木直江津航路の活性化・利用促進を図る。

- ・ 佐渡市「佐渡おこしチャレンジ事業」（主体：小木三崎百年プロジェクト協議会）

地域資源・遺産を活用した、地域住民参加の「着地型」「滞在型」観光による地域活性化に取り組む。

#### (4) 佐渡の地域振興に資する各種団体の事務局運営や活動のサポート

- ・ 小木三崎百年プロジェクト協議会

小木三崎地域の伝統文化の保全と復活、個性ある風景づくり、及び地域資源の活用を行う目的で、旧

小木町の地域団体により構成。

- ・ 深浦小学校校舎活用委員会

旧深浦小学校学区8集落の代表により構成され、閉校後の校舎の活用を推進する委員会。

- ・ 小木湊まちなみの輪

佐渡小木湊（小木港と共に発展した地域）の歴史を活かしたまちづくりを促進し、地域活性化に寄与することを目的に活動を行う市民団体。

#### （5）アースファニチャー事業

EC2002でのフォーラム「佐渡の森は蘇るか？」をきっかけに始まった実践企画「アースファニチャー」。里山の再生と地域経済の活性化、児童・生徒への新たな環境教育への取り組み。

- ・ 新潟県立佐渡高等学校の生徒ロッカー導入
- ・ 緑の少年団によるベンチの製作

#### （6）旧深浦小学校を活用した新たな宿泊施設の運営

2012年3月に閉校した旧深浦小学校は、鼓童文化財団が事務局を担う活用委員会と佐渡市が「市有財産無償貸付契約書」を結び管理運営している。当施設は、広域避難所に指定されており、また地域の宿泊施設の閉館が相次いでいることから、行政、地域住民、観光関係者からも当財団が活用することで地域活性化が図られることへの期待が向けられている。

今回の改修工事では、浴室工事に加え、客室、従業員室、調理室等の耐熱材による内装工事と、自動火災報知器、合併浄化槽の追加工事を行うこととなり、旅館業許可の基準を満たし、常時寄宿するものだけでなく、不特定多数の宿泊（柿野浦の鼓童文化財団研修生、鼓童スタッフも含む）が可能になる。2014年3月下旬の竣工を予定。

鼓童文化財団としては、鼓童グループによる活用と共に、永年の夢である「日本海大学」に繋がる学びの場としての充実を図る。その一つの取り組みとして、ifs（伊藤忠ファッションシステム）未来研究所、コーネル大学（アメリカ・ニューヨーク州）、第四銀行（本社：新潟市）とも連携を取りながら、企業経営者、社会人、学生等、幅広い方々に向けた研修プログラムの開発を進める。

## ウ．芸術文化の振興

### （伝統文化の調査研究を通じた芸術文化の振興）

#### （1）佐渡の文化に関する調査研究及び資料収集

郷土芸能の調査研究と資料収集、鼓童の映像資料、寄贈図書、レコード・CDの整理から始まった本事業は、地域振興に向けた研究と実践への取組みに広がっている。

また、調査研究の過程で出会った団体や地域の課題に取り組む活動への参加を通じて、地域の文化活動と地域づくり団体への支援と連携を深めている。

## (2) 伝統文化・文化活動への支援

東日本大震災被災地・郷土芸能復興支援活動

- ・ 岩手県・陸前高田けんか七夕祭り復興の記録
- ・ 岩手県・大船渡綾里（りょうり）地区の祭への参加
- ・ 新潟県・公立文化施設アオーレ長岡での鼓童公演に合わせた、被災県の郷土芸能団体の招聘

## (3) アウトリーチ活動

鼓童が培って来たノウハウを体現する鼓童名誉団員をはじめとするメンバーと共に、新たな創造や普及に繋がる実験的なパフォーマンスやワークショップを通じた活動を進めると共に、その運営スタッフの充実を図る。

また、外部団体、専門家との協働により、そのノウハウの応用、社会貢献に向けた研究活動を行う。

主なもの：

- ・ 小島千絵子とセスク・ジェラベル（スペインを代表する現代舞踊家）のコラボレーション（スペイン・バルセロナ）国際交流基金助成事業
- ・ ゆきあひ「清姫」（小島千絵子）
- ・ 丸の内朝大学／鼓童塾（齊藤栄一）
- ・ 一管風月（山口幹文）
- ・ 二人行脚（藤本吉利・藤本容子）
- ・ 花結（小島千絵子・藤本容子・金城光枝・藤本吉利）（ハワイ）
- ・ 研修生と島内中学生の交流学校公演

## (4) 太鼓と医療介護を融合させた認知症予防プログラムの開発

佐渡の行政機関と医療機関からの委託で、太鼓芸能を通じた理学療法、作業療法、言語療法、健康スポーツに融合させた研究と実践を、それぞれの分野の専門家と協働で行う。

## エ. 国際交流

(国際的な文化交流の場づくりと実践)

### (1) 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の実施・運営

27 回目の開催となる、「アース・セレブレーション 2014」は、城山コンサートにダンスカンパニー

「Dazzle」と「Blue Tokyo」をゲストに迎え、音楽とダンスの融合する新たな世界の創造に挑む。

また、佐渡の歴史や自然に触れる体験企画とともに、佐渡の芸能を紹介する企画の充実を図る。

運営面では、事務局機能への佐渡市の関わりを深化させる目的で、総合政策監を司令塔とし、観光振興課に加え、各部署からの参加を得て、行政施策との連動と協力体制を構築する。

開催期間：2014年8月22日（金）～8月24日（日）

- ・ 城山コンサート、ワークショップ、トーク&ライブ、セミナー、佐渡アウトドア体験、ハーバーマーケット、フリッジ ほか

## （2）KASA/MIX の受入

KASA/MIX はアメリカの非営利 NPO 団体である KASA（カサ=鼓童アーツスフィア・アメリカ）が主催する、北米を中心とした海外の太鼓愛好者が太鼓と日本文化を学ぶ隔年開催のツアー。

2014 年は 9 月 5 日～10 日の日程で、鼓童文化財団研修所、旧深浦小学校を拠点として受入を行う。

## カ. ファンドレイジング （資金調達力の強化）

### （1） 「鼓童の会」永年会員制度の創設

鼓童グループのサポート組織である「鼓童の会」のうち、「賛助会」の一部を「永年会員」制度へ移行を準備中である。賛助会では会費を預かる形をとっているが、継続年数や年齢を限って（20年以上または50歳以上）寄付へ切り替えていただき、会の特典を生涯提供するもの。

近年、高齢のため会員が亡くなるケースが発生し、会費返還の際に遺産相続に関わる手続きが必要となるため、会員ご本人の希望により生前に寄付に切り替えられるしくみを新設した。

### （2） 寄付のオンライン決済システム導入

鼓童が現在、チケットや商品のネット販売等に利用している通常のクレジットカード決済システムでは、「寄付」を決済することはできないため、NPOや公益法人等に限り、寄付のオンライン決済が可能となるシステムを新たに導入する。

鼓童文化財団では複数のシステムを比較検討した結果「Paypal」（ペイパル）を利用することとし、合わせて佐渡太鼓体験交流館での対面販売でも、クレジットカードの対応がスムーズになることが期待されている。